HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	タイ王国の水産物流通における個人経営市場の機能［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	吉村, 美香
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(水産科学)
Dissertation Number	甲第13259号
Issue Date	2018-06-29
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/71162
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Mika_Yoshimura_abstract.pdf, 論文内容の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文内容の要旨

海洋生物資源科学専攻：博士（水産科学）　　氏名：吉村美香

学 位 論 文 題 目

タイ王国の水産物流通における個人経営市場の機能

Functions of private fish-landing sites in the distribution of marine fish products in Thailand

背景と目的

タイ王国は漁業生産量が世界第四位（2017 年現在）の漁業大国であり、我が国において最も重要な水産物輸入国の一つである。タイ王国では、1960 年代の商業漁船の導入に伴い、旋網漁船やトロール漁船による大規模漁業が始まり、海面漁業生産量が急激に増加したが、1987 年をピークに減少の一途を辿ってきた。1947 年に策定された水産法規により（Department of Fisheries in Thailand 2005）、操業規制が存在するものの、違法操業の取り締まりがされないまま今日に至っている。その結果、海洋環境の深刻な悪化と乱獲や混獲などによる漁業資源の減少に直面し、資源管理政策の実施は、政府の早急な課題となっている。また、2008 年に IUU 漁業（Illegal, Unreported and Unregulated fishing）廃絶のための規則を採択した（Tasamenyi et. al 2010）EU は、タイ王国に対して、資源管理政策の策定・実施・漁船の監視システムの導入・漁獲証明書付きのトレーサビリティの改善等を勧告した。トレーサビリティの改善には、水揚げ状況だけでなく、水揚げ後の水産物の流通が把握されていることが前提であり、そのためには、流通の要である水揚げ地や水産市場の実態を明らかにすることは必要不可欠である。しかし、タイ王国内の水産市場は、異なるタイプの市場と仲買業者が数多く存在し、その成り立ちは非常に複雑であるという問題を抱えている（FAO 2009）。そこで、本研究では、資源管理政策の第一歩として欠かせない現在の水揚げ情報を把握する上で必要な、個人経営の水揚げ場を兼ねる水産卸売市場とタイ王国の水産市場を水揚げや仲買業者の形態を基に類型化し、流通を含めた流通の市場経営の実態を把握することを目的とした。また、タイ王国特有の市場形態である個人経営市場に着目し、その成り立ちや機能を明らかにすることで、水産物のトレーサビリティの改善に向けた課題について考察した。

材料と方法

水産卸売市場の分類調査　水産卸売市場の分類調査では、2012 年 1 月～2013 年 8 月に、

バンコク水産市場、メークロン水産市場、サムトサコン水産市場、プーケット水産市場、さらに個人が経営する水揚げ地を兼ねる水産卸売市場である Pier を訪れ、どのように市場が運営されているのかケーススタディ調査を実施し、開設者を基準として分類を行った。

地域別の漁業概要と対象地域の特徴　タイ王国の漁業実態を把握するための資料調査では、DOF の発行する漁業生産統計（DOF in Thailand 2014）と漁業センサス（DOF in Thailand 2017）を使用した。タイ王国の海面生産量と主要漁法による水揚げ量、さらに主要水揚げが多い魚種の項目を抽出して整理した。また、漁業生産統計（DOF in Thailand 2014）より主要魚種ごとの漁獲量と金額を抽出した。また、これらの実態をもとに、以後の主要調査対象地域の選定を行った。

個人経営市場の成り立ちと取引形態　さらに実態調査のために選定した 3 地域において、Pier と呼ばれる個人経営の水揚げ漁港を対象に、2014 年 12 月～2016 年 2 月に調査を実施した。調査票は 1. Pier 設立の開設の背景、2. 取引形態、3. 資金運営４. 水産物 の４項目で構成し、各地域の水揚げ漁港を兼ねる水産個人市場（Pier）オーナーに、面接調査を行った。

結果

水産卸売市場の分類調査　タイ王国の水産市場は、国営企業であるFMO（Fish Marketing Organization）の水産市場、メークロン漁業協同組合の水産市場、さらに、個人が経営する水揚げ地を兼ねる水産卸売市場であるPierに分類された。FMOの水産市場やメークロン水産市場にもタイ王国沿岸域のPierから水産物が運搬されてくることがわかり、タイ王国の水産物流通の中でPierは、タイ王国の水揚げを支える重要な役割を果たしていることが明らかになった。

地域別の漁業概要と対象地域の特徴　Pierの実態は、地域別の漁業と漁業経営体の特徴を、タイDOFの統計データを用いて明らかにし、タイ王国の漁業の地域特性をまとめ、さらに、調査地域の特性について明らかにした。結果、調査各地域をタイ湾北部を東部、中部、南部に分け、各地域の代表性を持つ県（East ; ラヨン県、Central ; プラチュアップキリカン県、South ; スラタニー県）を調査地域として選定した。

個人経営市場の成り立ちと取引形態　Pierを開設したのは、漁業者や仲介業者など、元々水産業に携わり、水産物の供給が可能な人々であることが分かった。また、Pierを開設した理由は、地域において差が見られたものの、収入が高いからという回答が多く、自分の漁船の水揚げをするため、収入が高いから、が同じ回答数であった。3地域でPierオーナーが副業を行っていたが、Pierの収入が全体の7割以上を占めており、Pierの収益により生計が支えられていた。

EastではPierの歴史が長く、親の後を継承した人々が80%を超えていた。主に商業漁業の水揚げ地で、都市近郊の加工場へ流通されるマグロ類の他、イカ類やAnchovyは輸出もされていた。Southでは、小規模漁業が行われ、単価の高いシャコ類、カニ類、エビ類が近くの

観光地である島々、タイ国南部の工場へ流通され、中国や台湾へ輸出されていた。Centralでは、単価もEastより高いがSouthより低く、EastとSouthの間の中規模な漁業が行われ、流通に関しては、他の2地域のような地域的特徴がみられなかった。

考察

タイ王国のPierを経由する取引は、漁業者や買い付け業者との個別の人間関係によって支えられてきたものであり、このことがタイ王国の水産物流通を複雑にしてきたといえる。開設の経緯より、急増した商業船による水揚げを政府の漁港だけでは捌けず、漁業者自ら開設することでPierが増えてきたといえるが、現在の状態のまま、数多くあるPierを減らす目的で、政府の管理下でFMOのような誰でも利用できる整備された漁港を、新たに開設したとしても、Pierに借金がある漁業者は利用できないため、政府の漁港に、周辺の水揚げ漁船を集約することは難しいと思われる。

また、ある地区の水産物流通を一括する目的で、Pierで水揚げされた水産物を、まずは決まった水産卸売市場へ運搬し、取引を開始するようなことを決めれば、市場までの距離や、買い付け量、価格の問題から、取引ができない買い付け業者が出てくるだろう。

複雑であっても、既に関係が構築され、必要なシステムとして機能している以上、現在の流通形式が継続され、今までの取引形態と異なる他の流通のやり方では代替できなくなっている。今後はこのような個別の関係で成立しているタイ王国の水産市場の実情を前提としたトレーサビリティ対策が必要である。